

令和7年度

福島小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○子どもが主体的に学ぶ楽しい授業・わかる授業の実践  
○個に応じた教育活動に取り組み、基本的な生活習慣を身につけた子どもを育てる。

校長

学力向上推進員

【小中連携における共通の取組】

語彙力の育成

【各校の取組状況の把握について】

授業参観や学校力向上コラボレーション事業の研修を通じて各校の取組を把握する。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○既習事項の学習内容については、ある程度の定着がみられる。 ●基礎の漢字・計算が十分ではない個別指導が必要な児童もおり、学習定着の差が大きい。 ●自分の思いを伝えるための語彙が十分でない。	・基本的な生活規律や学習規律を身に付け、学年相当の基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけている。	・「学習の構え10の約束」と家庭学習の手引きを全教職員が共通理解し、全学年で指導する。 ・漢字の小テストを定期的に行ったり、音読・計算カードを家庭と連携して活用したりする。新聞や視写等も適切に活用する。 ・友達の作品や模範例を紹介したり、個に応じた課題を提示したりする。		・授業の始まりをそろえたり、学習に必要なものを準備したりするなど、学習の構えができる児童が増えてきている。忘れ物に関しては家庭との連携をさらに深めて臨みたい。 ・学年に応じた漢字の小テストの実施や音読・計算カードを活用した。音読等についてはタブレットの活用も進めている。平均的な定着は少しずつ進んでいるが、児童間の差が見られることが課題である。 ・新しい学び方を見つけ、自己に活かせる児童が増えてきている。	・「学習の構え10の約束」の内容を点検し、児童の実態にあったものにできるように今後も話し合っていく必要がある。(年度当初や学期ごとにふり返り・確認等を行っていく。)また、家庭と連携を図りながら、さらに定着・徹底を図る。 ・授業や家庭学習における、音読等へのタブレット活用をさらに進め、得られる力を伸ばしていきたい。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○思考力・判断力・表現力が高い児童が授業の内容を深めたり高めたりしている。 ●調べたことや考えたことを表現することを苦手と感じる児童がいる。	・課題に対して既習を生かしたり、根拠を明確にしたりして考えをもつことができる。 ・他者と話し合いを通して、考えを比較したり統合したりして、よりよい解や新しい考えをつくり、文章や発話によって表現することができる。 ・必要な情報を読み取ったり、目的や条件に応じて書いたりできる。	・円滑に活動が進むように、書くこと・話すことの型をいつでも見られるようにする。 ・学習形態や思考法を工夫し、考えを比較したり統合したりする機会を設ける。 ・互いの意見を紹介・共有・まとめる場を設定する。		・型を例示することで、児童の学習の手助けになっている。タブレット等を活用し、書くことの指導を進めている。 ・学校評価「先生や友達の話さ、さいごまで集中して聞いていますか。」に肯定的な意見は90%で2%上昇した。話し合う構えを大切にしようとしていると考える。 ・タブレット等を活用し、情報共有する場を増やそうとしているものの、必要な情報を理解しながら聞くこと、目的や条件に合わせて読み書きすることには課題が残る。	・タブレットを活用し、児童の表現の場や様々な思考ツールに触れる機会を増やすようにする。 ・児童に合わせた課題の工夫、個に合わせた課題の選択ができるよう努める。 ・研究授業等や研修を活用し、授業力向上を進める。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた学習課題や日々の宿題に真面目に取り組む児童が多い。 ●学習に対する姿勢が受動的な児童や間違いを恐れて消極的になってしまう児童がいる。	・わかる楽しさや喜びを感じ、進んで粘り強く学習に取り組むことができる。 ・新しい物事に挑戦したり、他者の話を詳しく聞いたりして、進んで関わろうとすることができる。	・ICT機器を適切に活用する。 ・自ら課題を選択したり、思いを表現したり発表したりする場面を設定する。 ・興味・関心に応じた教材づくりや授業づくりを行う。	・ICT機器については、特にタブレットに重点を置いた。	・学校評価「タブレットを使って、自分の考えを表現したり、友達に伝えたりしていますか。」に肯定的な意見は、81%で2%上昇した。機器を使用することになってきており、授業においてはタブレットのアプリを活用した活動を進めている。 ・タブレットを活用しつつ、児童の関心に合わせた学習構成をしたり、自分で課題を選択する場面を増やしたりする中で、意欲的に取り組む姿が増えてきている。	・教職員がICT活用等による教材を作成、共有する中で、情報収集・発表・振り返りなど様々な場面で活用できるようにする。 ・研究授業や研修等で、教職員間で情報共有し、授業を中心とした学校生活全体の中で、ポジティブな声かけをより一層意識して進めていきたい。 ・タブレットの多様な使用方法に触れる以外にも、情報リテラシーにも目を向け、よりよい活用方法を共に考えていきたい。